



東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校

令和8年9月28日

令和8年度 第6号

<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

普段の積み重ね

校長 五十嵐 潤

2学期が始まって1ヶ月が経とうとしています。朝晩には、秋の訪れを感じるようになりました。最近のニュースでは、全国各地で発生する地震や豪雨、土砂災害などの被害が報じられています。被災された地域の方々のニュースに胸を痛めると同時に、防災意識の重要性を改めて痛感する日々です。

先月、地震を想定した避難訓練を行いました。今回の訓練では、休み時間に地震が発生したことを想定し、子どもたちがそれぞれの場所から避難しました。地震は、いつ起こるか分かりません。授業中とは限りません。先生がすぐそばにいても限りません。だからこそ、「地震が起きたら、どうするのか」「自分はどう動けばよいのか」を普段から考えておくことが大切です。

先日行われた3年生の防災教室で、災害が発生し、多くの方々やご家族が避難所に集まったとき、互いに気持ちよく過ごすためには「周りへの思いやり」が欠かせないということを学習しました。予期せぬ困難や不安の中で、その時だけ急に周囲に気を配ろうと思っても、なかなかできるものではありません。普段の生活から、自分以外の人の気持ちや立場を考えながら行動できてこそ、非常時に自然と温かい配慮ができるのです。

「特別なときにできることは、普段からできていることだけである」このことは、防災や安全面だけでなく、学校生活のすべてに通じています。

例えば、友達関係。困っている友達にそっと寄り添ったり、自分の意見を伝えつつ相手の気持ちを大切にしたりする姿は、一朝一夕に身に付くものではありません。日常の中で、「笑顔で相手と話す」「優しい言葉を使う」といった小さな配慮を重ねているからこそ、自分にとっても相手にとっても安心できる環境となるのです。

学習でも、テストや発表といった場面で力を発揮できるのは、日々の授業でコツコツと課題に向き合い、地道な努力を続けてきた蓄積があるからです。「普段」をいい加減にしていって、いざというときだけ力を発揮することはできません。

日常という穏やかな時間の中にこそ、人間としての成長や、たくましく生きるための土台が隠されています。日々の生活を一日一日ていねいに重ねていくこと。そして、自分だけでなく周りの人のことも思いやって過ごすこと。この「普段の積み重ね」こそが、どんな状況においても自分自身を支える確かな力となります。

そして、これは子どもたちだけのことではありません。私たち職員も全く同様です。普段から子ども一人一人の思いに耳を傾け、ていねいに関わりを重ねているからこそ、いざというときに子どもたちの気持ちの変化に気づき、真に寄り添う支援ができます。子どもたちが、日々の授業一時間一時間に全力を注ぎ、分かる・できる喜びを実感できるように、質の高い授業を目指していきます。

「普段の積み重ね」を大切にし、今日の過ごし方が、明日の自分をつくる。そんな思いをもって、一日一日を大切にしていきたいですね。